砥石城跡（上田市）

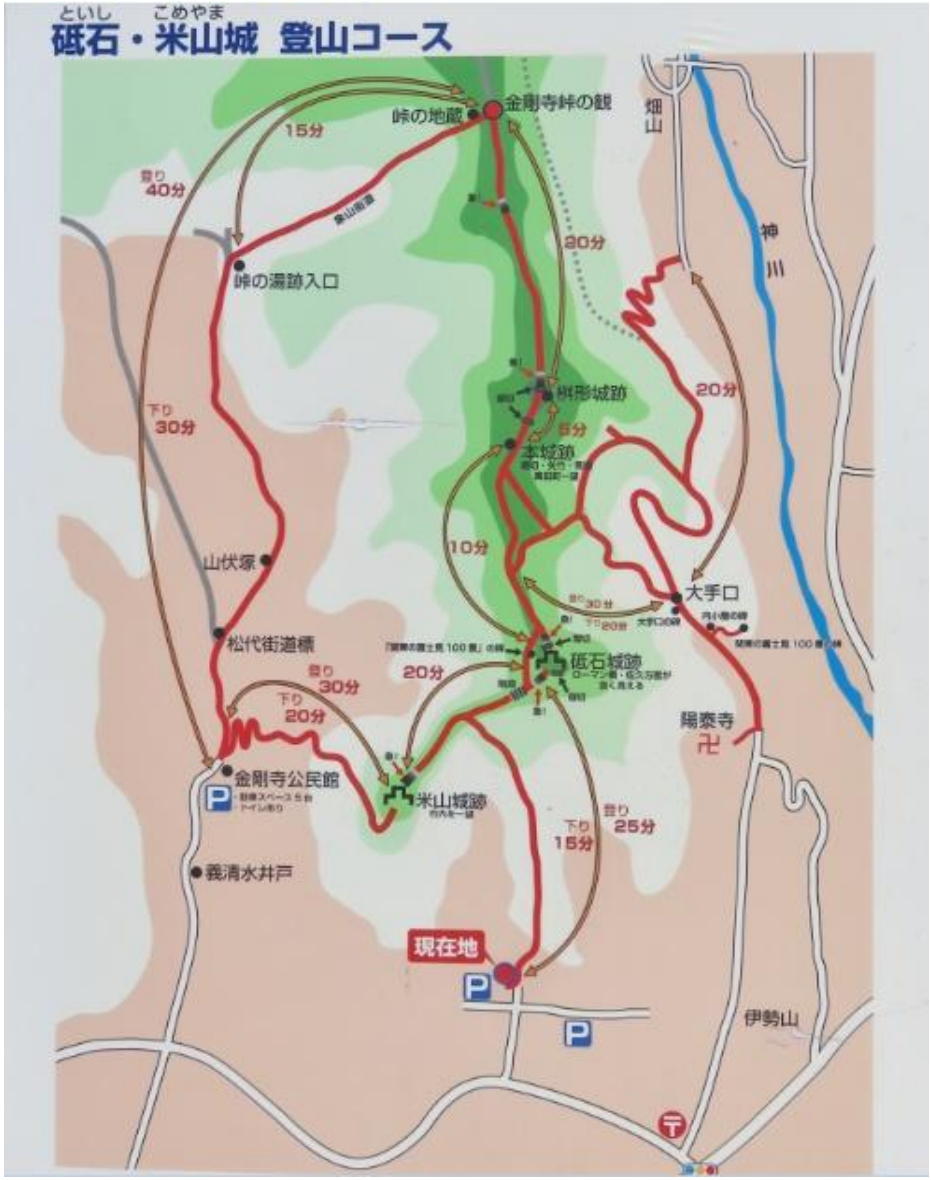
築城年代：不詳、築城者：真田氏　※本城を中心に北に桝形城、南に砥石城、西南に米山城を配した連郭式山城で、総称して砥石城と呼ばれる

南側から見たところで、左手が米山（こめやま）城跡、右手が砥石城跡/本城跡と桝形城跡は砥石城跡の背後になる

近づくと駐車場があった/正面が米山城跡、右手が砥石城跡

説明坂が立っている

元々は村上氏の属城で、村上義清は武田信玄の猛攻も退けたが、その後真田幸隆による調略によって真田の城となった



砥石・米山城 登山コース
金剛寺峠の観
峠の地蔵
15分
登り 40分
峠の湯跡入口
20分
畑山
神川
桝形城跡
5分
本城跡
20分
下り 30分
10分
山伏塚
大手口
松代街道標
砥石城跡
20分
登り 30分
下り 20分
陽泰寺
金剛寺公民館
米山城跡
登り 25分
下り 15分
義清水井戸
現在地
伊勢山

ここから米山城跡→砥石城跡→本城跡→桝形城跡→陽泰寺→大手口と進んでみよう

いざ、登城

早朝、夕方は危険！/今、9:30 だから大丈夫かな？

突き当たりに標石が見える

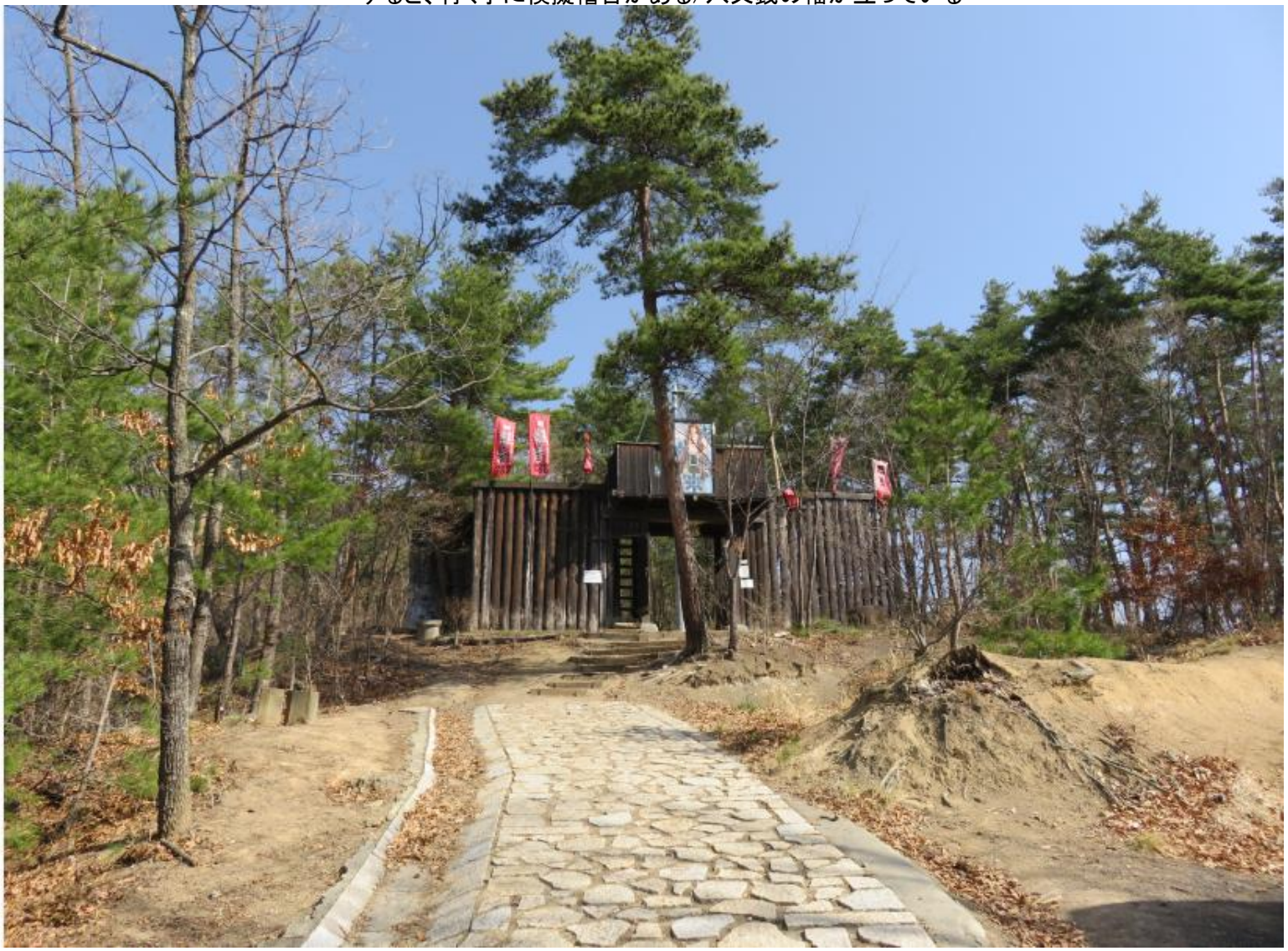
アップで見たところ

砥石・米山城址
櫓門口登山道
なめんなよ！
真田幸村が居た名城です！
自然の地形を利用し
侵入者を拒んだ山城です
自ら安全確保をお願いします
「平成23年度市町村振興宝くじ
助成事業」により整備しました

右手に進む

東屋がある

すると、行く手に模擬櫓台がある/六文銭の幡が立っている



櫓台に登って振り向いたところ/遠方が上田市内のようだ

櫓門を潜って北方向へと少しづつ上って行く

正面が米山城跡

尾根を進んで行く

正面前方が砥石城跡

矢印（砥石・米山城に至る）に従って進む

山道は段々狭くなる

また、矢印があった

突き当たりのここは米山城跡（左手）と砥石城跡（右手）との分かれ目

こちらは右手の砥石城跡方面

右手の米山城跡方面/まず、こちらへ行ってみよう

少し進むと険しい山道となる

岩盤が剥き出し

左手に張ってあるトラロープにつかまりながら、滑り落ちないように登って行く

途中、左手から緩やかに登れる山道がある

後を振り返るとこんな塩梅

かまわず急斜面を直登する

いやはや疲れる

頂上の本郭に到着

そこで振り返って見たところ

これは本郭を東側から西方向に見たところ

これは南側から北方向に見たところ/前方に石碑等が立っている

そこで振り返って南下の二の郭とその先の三の郭を見たところ

これは「武田の砥石崩し」で名を挙げた「村上義清公之碑」

安政二年の銘がある地蔵菩薩

こんな形の石塔もあった

これは北側を見下ろしたところ

振り返って南方向を見たところ

東屋と説明坂がある

長野県史跡　砥石城跡

昭和四十四年五月十五日指定

米山城跡

砥石城は本城を中心に北に桝形城、南に砥石城、西南に米山城の四要害から構成されている堅固な連郭式の山城である。築城年代は明らかではないが、戦国時代、坂城の村上氏が小県方面へ進出する拠点としていた。

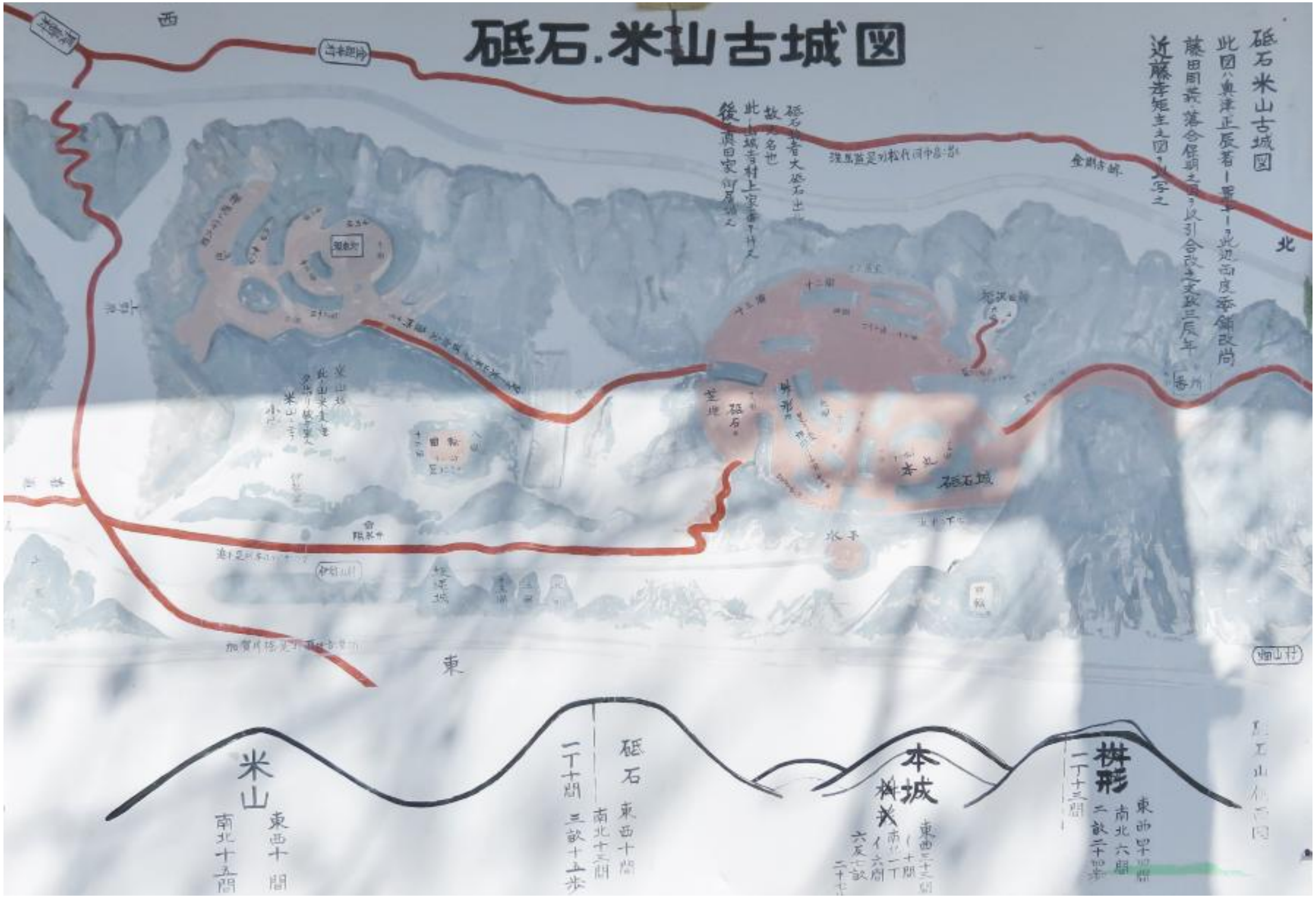
天文十九年（一五五〇）村上義清が武田晴信（信玄）の軍を大敗させ、世に「武田の砥石崩れ」と言われたが、翌二十年真田幸隆（幸綱）は調略を用い、独力で攻略した。やがて幸隆の子昌幸は、この城を居城としたが、天正十一年（一五八三）上田城に移った。それ以後も上田城外護の要害として重要視された。

米山城は、砥石城の西南方の峰続きにあって、本郭の南下に二の郭・三の郭を配置し、その下に腰郭も築かれている。白米を馬の背に流して水が余るほどあることを敵にみせかけたという白米城伝説も残されている。

平成二十七年十二月一日

長野県教育委員会

上田市教育委員会



砥石.米山古城図
西
北
東
砥石米山古城図
此図ハ真津正辰著
藤田同義 落合保明之図ヲ以引合改ム
近藤孝矩主之図ヲ以写之
砥石者大盛石出
故ニ名也
此山城青村上宗
砥石城
米山
東西十間
南北十五間
砥石
東西十間
南北十三間
一丁十間
三畝十五歩
本城
桝形
南北六間
一丁十三間

これは二の郭から南下の三の郭を見たところ/その更に南下にも腰郭があるようだ/三の郭から左手に進む山道が登って来る際にあった緩やかな山道のようだ

そこで振り返って本郭への虎口を見たところ

これは二の郭を東側から西方向に見たところ

振り返って東側を見下ろしたところ

これは西側を見下ろしたところ

さて、米山城跡を下りて、今度は砥石城跡へと登って行く

こちらもなかなかハードな山道

途中から枕木のある坂道となる

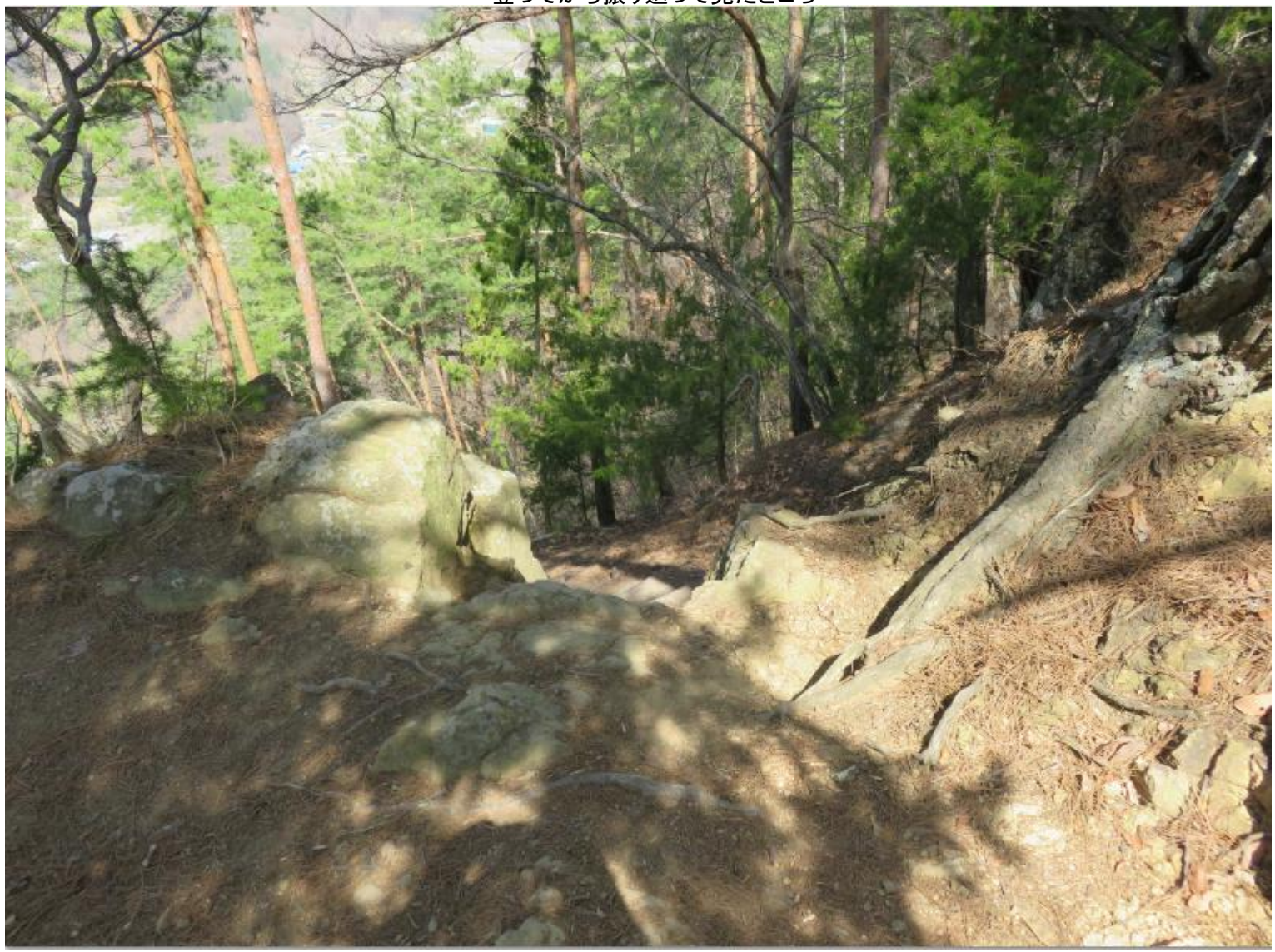
いやはや、とってもハード/矢印（砥石城へ至る）がある

振り返って登って来た山道を見たところ

そこから少し登ると岩盤を削った階段があった

こんな塩梅

登ってから振り返って見たところ



更に急峻な山道が続く

ここで右手に頂上が見えて来た/左手に行くルートがあるが、砥石城跡の背後（北側）に直接行けるようだ

このルートがそれ

さて、右手に登ると砥石城跡への虎口に到着

振り返って見たところ/急峻さが見て取れる

ここが砥石城跡/標柱と説明坂が立っている

長野県史跡　砥石城跡

昭和四十四年五月十五日指定

この城は、東太郎山の一支脈が、神川に沿って南方に突出している高い尾根に構築され、本城を中心に北に桝形城・南に砥石城・西南に米山城を配した堅固な連郭式山城で、総称して砥石城と呼ぶ。

〈本城〉

砥石城全城で最も広大で、最上段の本郭から南へ二の郭・三の郭と続き、その東下または東南方に四の郭・三日月形郭・帯郭群の遺構をよくとどめている。本城の東南は小さな谷間で、これを登る両側には小段郭が麓まで、幾重にも続いており、登城口（大手）と見られている。

〈桝形城〉

北方最高所標高八〇〇mにあって、自然の山頂を利用している。郭の西方入口に四平方mの桝形があるのでこの名がついた。郭は長方形で、手前に半月形の段郭が二つある。

〈砥石城〉

本城の南に連絡しており、北下りの鞍部に幅九mの深い堀切がある。本郭は方二〇mの削平方形郭で、周囲の展望は実によい。

砥石城は村上・真田氏が戦略上重要視し、また重要な役割を果した城である。規模が大きく四要害を二体として構築し、しかも居館としても用いられた極めて特色ある貴重な史跡である。

平成二十七年十二月一日

長野県教育委員会

上田市教育委員会

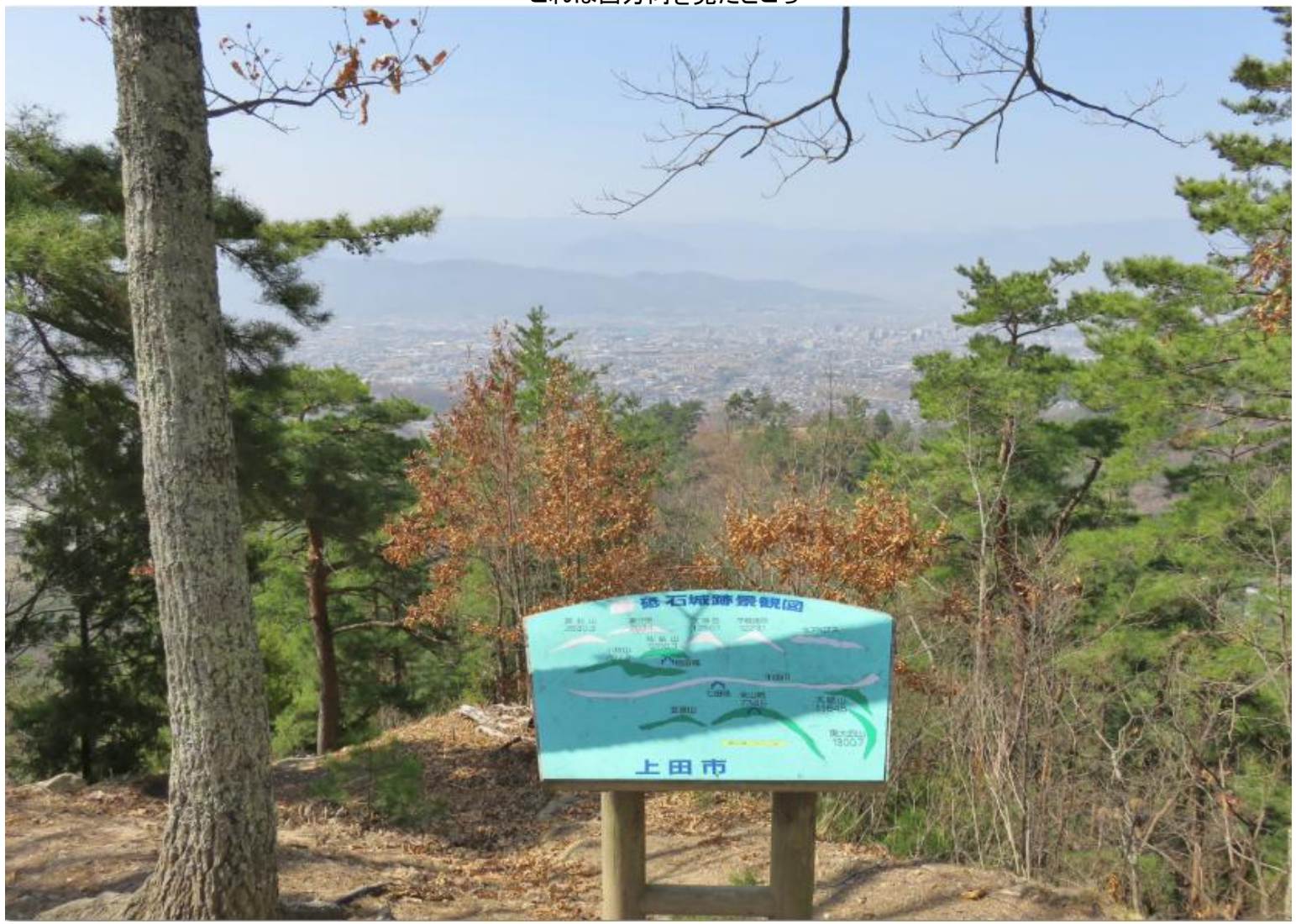
南側から北方向に見たところ

振り返って南側を見下ろしたところ/この下には堀切があるようだ

東側から西方向を見たところ

振り返って東側を見下ろしたところ

これは西方向を見たところ



砥石城跡景観図
蓼科山
2630.3
美ケ原
2034
天神岳
1250.1
子檀嶺岳
1223.1
北アルプス
独鈷山
1266.3
小牧山
797.2
塩田城
千曲川
上田城
米山城
734.6
太郎山
1164.5
玄蕃山
東太郎山
1300.7
上田市

上田城跡が見えるらしい

北側から南方向を見たところ

振り返って北側を見ると本城跡へ至る虎口がある

さて、トラロープにつかまりながら虎口を下りて行こう

虎口を下ると堀切がある/前方が本城跡方向（北方向）

これはその堀底に下りて振り返って砥石城跡の虎口と城塁を見たところ

この城塁は切岸となっている

少し退いて手前の堀切と虎口、切岸を見たところ/堀切から右手に行くルートは先程の、砥石城跡へ登り切る手前に出るようだ

このルートがそれ

堀切を左手から右手方向に見たところ

そこで左手を見たところ

右手を見たところ

反対側から堀切を見たところ

そこで右手を見たところ

左手を見たところ

さて、本城跡方向（北方向）へ進もう

矢印（本城・桝形城へ至る）がある

馬の背状の山道を進む

左手の一段下には広い平場が見える

さて、右手は東側の麓の内小屋地区にある大手口を登って来た大手道で、この辺りは広い平場（馬場と云う）となっている/ここから先が本城のエリアで、前方は本城手前に展開する段状の腰郭群/説明坂では「最上段の本郭から南へ二の郭・三の郭と続き、その東下または東南方に四の郭・三日月形郭・帯郭群の遺構をよくとどめている。本城の東南は小さな谷間で、これを登る両側には小段郭が麓まで、幾重にも続いている」と記されている

この広い平場は大手口馬場とでも呼ぶのか

こちらが大手道/ここを下って行くと東側の麓の内小屋地区にある大手口、その先の陽泰寺に至る

さて、前方が本郭手前（南側）の帯郭（手前）と四の郭（奥）の切岸/北方向を見たところ

左手に矢印（本城・桝形城に至る）がある

まず、左手から帯郭へと進む

帯郭への虎口を登る/左手は四の郭の切岸

ここが帯郭/左手は四の郭の切岸

左手を見ると四の郭への虎口がある

これは帯郭から南側の大手口馬場を見下ろしたところ

帯郭を東方向に進む/左手の四の郭の切岸の急峻さが見て取れる

東側に回り込んだところ/この右下は小さな谷間で、これを登る両側には小段郭が麓まで、幾重にも続いているらしい

そこで振り返って見たところ

四の郭の切岸を見上げたところ/この上が四の郭

振り返って南東側を見下ろしたところ/ここを下って行くと東側の麓の内小屋地区にある大手口に出る

さて、四の郭へと登ろう

ここが四の郭の虎口/左手は三の郭の切岸

左手を見ると三の郭への虎口がある

四の郭も東側で回り込んでいる左手は三の郭の切岸

これは四の郭から南側の帯郭とその先の大手口馬場を見下ろしたところ

四の郭の東側はこんな広い平場となっている/左手は三の郭の切岸

そこで右手を見たところ/この右下が三日月形郭のようだ

同じく左手を見たところ/前方は三の郭の切岸とその先は二の郭の切岸

更に左手を見たところ

その左手/正面は三の郭の切岸

更に左手/四の郭を東側から西方向に見たところ

その左手には一段下の帯郭が見える

こんな塩梅

その左手

更に左手/この下は小さな谷間で、これを登る両側には小段郭が麓まで、幾重にも続いているらしい

さて、三の郭へと進もう

ここが三の郭への虎口/前方に二の郭の切岸が見える

ここが三の郭/左手は二の郭の切岸

左手を見ると二の郭への虎口が見える

これは二の郭の切岸を見たところ/右手が三の郭

三の郭も東側で回り込んでいる/左手は二の郭の切岸

そこで右手を見下ろしたところ/四の郭が見える

その右手を見たところ

さて、二の郭へと進もう/正面がその虎口

ここが二の郭/前方に本郭への虎口と切岸が見える

振り返って三の郭とその先の四の郭方向を見たところ

本郭への虎口の左手に石垣が残っている

こんな塩梅

さあ、本郭への虎口を上ろう

ここが本城の本郭/南側から北方向に見たところ

本　城
砥石・本城・槻形と連なる三　要害（砦）からなる砥石城の
中心である。南から北へと段　登りの数段の削平した郭から
なっており、最上部が本郭で　ある。山上としては、かなり
広い郭群であり、館もあった　のでは、と推定されている。
なお、一般に「本城」とは、　江戸時代の本丸に当たる。

振り返って今来た虎口を見たところ

東側から西方向に見たところ

振り返って東側を見下ろしたところ

西側から東方向に見たところ

振り返って西側を見下ろしたところ

北側から南方向に見たところ

振り返って北側を見下ろしたところ/こちらが桝形城跡方向/手前に堀切がある

虎口から下りて行く

正面は堀切を渡る土橋

堀切（から堀跡）を右手から左手方向に見たところ

前方の西側を見下ろしたところ

左手から右方向を見たところ

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ

前方の東側を見下ろしたところ/手前が土橋

土橋を渡って振り返って本城跡方向を見たところ

少し退いて見たところ/左手に下って行く山道は本城跡を通らずに大手道へと至るようだ

堀切を見たところ/前方が本城本郭跡

さて、桝形城跡へと北方向に進もう

少し進むと右手に説明坂が立っている

矢　竹
矢竹は節が低く節間もまっすぐなところから矢（矢柄）に用いられ、自然に生えるだけでなく栽培もされる。
この辺一帯に繁っている矢竹も、砥石城内に植えられていたものの名残ではないか、とみられている。ここに限らず、中世の城跡や館跡に矢竹が生えている例は多い。

これが矢竹（やたけ）

更に進むと左手に矢印（桝形城）がある

馬の背のような尾根を登って行く

いよいよ前方が桝形城跡のようだ

手前に堀切状の土橋がある

こんな塩梅

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ

トラロープにつかまりながら頂上に上る

振り返って見たところ

ここが桝形城跡への虎口

登って振り向いて見たところ

ここが桝形城跡/南側から北方向に見たところ

これが桝形城跡の由来となった桝形虎口らしいが

ここが本郭

桝　形　城
砥石城北端の要害（砦）。入口が折れ曲がっており、桝形
状になっているところから、この名がおこったものとみら
れる。なお、ここが砥石城の最高地点であるところから、
ここが「本城」とされていた時期もあった。真田氏の本拠、
真田町の本原・長方面が一望に見渡せる。

北側から南方向に見たところ

そこで振り返って北方向を見たところ

堀切の向こうに腰郭がある

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ

堀底に下りて右手から左手方向に見たところ

そこで左手（本郭）を見たところ

同じく右手（腰郭）を見たところ

振り返って東側を見下ろしたところ

本郭空の虎口を見上げたところ

さて、ここが北端の腰郭/説明坂がある

桝形城跡景観図
四阿山
2354
角間山
1980.8
烏帽子岳
2065.6
根子岳
信綱寺
長谷寺
松尾城
真田氏本城
天白城
横尾城
神川
真田氏館跡
矢沢城
上田市

ここから真田氏本城跡や真田氏館跡が見えるようだ

アップで見たところ

左手を見るとここから西方向に下って行く山道がある

物凄く急峻な崖状態/ここを下って行くと金剛寺峠に出るようだ

振り返って腰郭を見上げたところ

これは腰郭から堀切越しに本郭を見たところ

堀切と土橋を見下ろしたところ

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ

さて、最初の麓の駐車場まで戻り、傍にある東屋で遅めの昼食を摂る/前方は上田市内方面らしい

さて、ここは東側の麓にある陽泰寺/真田一族の主家海野氏の菩提寺と云う

砥石城跡郷土環境保全地域

この地域は、砥石城一帯の歴史的に特色のある自然環境を守るために指定されたものです。

砥石城は中世末期の典型的な山城で、戦国時代には、村上義清の支城として、その後、上田城築城までの真田氏の居城となり、今もなお、本城を囲んでいた、桝形、砥石、米山の城郭が、当時の面影を残しています。

この優れた歴史的自然環境を大切に守り育てましょう。

長野県自然環境保全条例第15条の規定により指定しています。
昭和54年10月1日指定　面積59.55ヘクタール

長野県・上田市

背後の山が本城跡のエリアのようだ

アップで見たところ

総門

砥石法窟とある

急峻な地形に堂宇が建つ

陽泰寺のエリアには居館的な施設が存在していたとも云われ、左手のこんな風景は何んとなくそれらしさを感じさせる

六地蔵も並ぶ

その右手にはこんな石垣が風情を醸し出す

本堂

左手を見たところ

右手を見たところ

陽泰禅寺とある

鐘楼門

振り返って下を見たところ

こんなものもあった

改めて六地蔵

陽泰寺前のこんな風景も居館的な施設の存在の匂いがする

さて、そこから北方向に進む

左手に「内小屋ヲヘテ砥石城大手口」と記された矢印がある

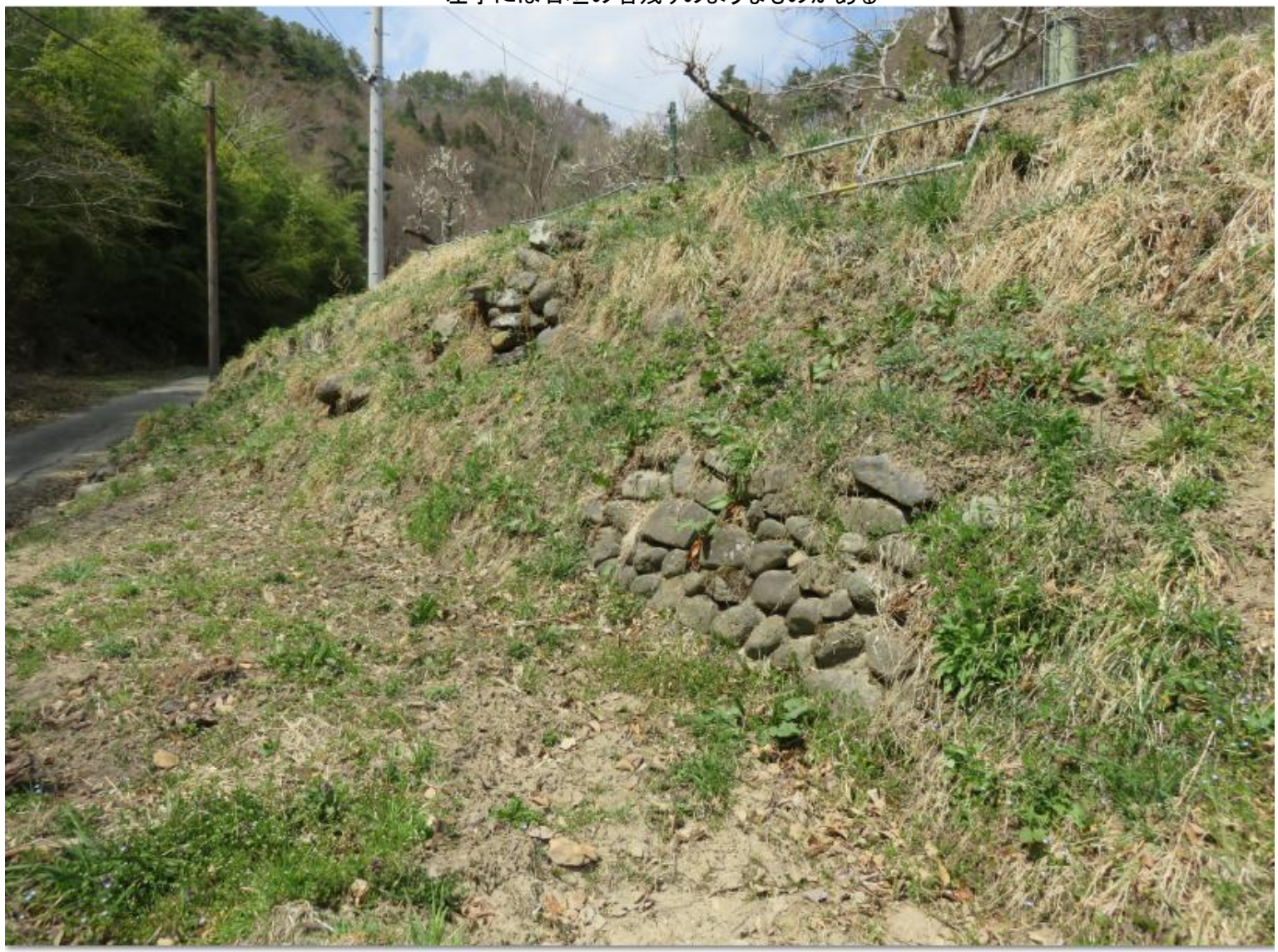
このエリアが内小屋地区

右手を振り返ると堀跡らしい地形がある

アップで見たところ

その先の左手はこんな塩梅で堀跡の雰囲気

左手には石垣の名残りのようなものがある



この内小屋地区は家臣団屋敷のようなものがあったらしい/このエリアも城域の一部であったと云うことらしい

少し進んだ左手に「砥石城に至る」と記された標柱があった

左戸石城ニ至ル
二十分

そこを進んでみよう

少し登ると「砥石城大手口」と記された矢印があった/この先に登って行くと本城跡手前の大手口馬場に出るようだ/途中に水の手もあるようだが、時間切れでこれにて終了

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/009nagano/029toishi/toishi.html

http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Lake/4393/nagano/uedasi.htm

http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-61.html

https://wp.mikeforce.net/castles/2016/03/%E7%A0%A5%E7%9F%B3%E5%9F%8E-toishi-castle.html

https://blog.goo.ne.jp/f-20tigershark/e/d2a48b8648235b2fb5ff993e1bac8ddd

http://www.avis.ne.jp/~torebi/topkukan/toishi.html

http://www.ktr.mlit.go.jp/honkyoku/kikaku/fuji100/20071119ueda.pdf#search=%27%E7%A0%A5%E7%9F%B3%E5%9F%8E%E8%B7%A1%27

http://castle.slowstandard.com/16shinetsuhokuriku/19nagano/post_77.html

http://www.cafe-dragoon.net/trip/castle/toishi2011.html

http://sanada-tabi.com/wp-content/uploads/2015/09/bb4aa4e6c855284bbb741cb71ac9bc00.jpg

http://umoretakojo.jp/Shiro/TokaiKoshin/Nagano/Toishi/index.htm

住吉
上野
上田
四日市
団地
荒井
35
175
真田町本原
畑山
144
中原石造宝篋印塔
大畑
本原小
真田氏
発祥の郷
金剛寺
175
瀧水寺
下原
上田
住吉
上野
上信越自動車道
大久保
上田市
650m
IC
上田菅平
赤坂
175
176
矢沢公園
©2018 ZEN
地図データ©